

巻頭言

総合技術力の重要性



代表取締役社長

技術士（建設） 植田 健二

日頃から弊社をご愛顧頂きまして、誠にありがとうございます。

記憶も鮮明な事と思いますが、今年、3月11日 宮城県牡鹿半島の東南東沖130 kmの海底を震源としたマグニチュード9.0を記録する観測史上、最大の地震が発生しました。地震と津波による被害の甚大さに驚かれた事と思います。東日本大震災では、分かっているだけでも、約2万人の尊い命が失われ、総被害額は25兆円規模に達すると予測されています。

先ずは、このたびの大震災および福島第一原発事故において被災された多くの方々、関係各位並びにご家族の皆様にご心からお見舞い申し上げるとともに、一刻も早い復興を心からお祈り申し上げます。

さて、今後は、この大震災を乗り越え、人類の英知を結集した社会資本整備を進めていかなければなりません。それも単に元に復旧するのではなく、より次元の高い、かつ機能的に優れた社会資本の整備計画が重要であることは言うまでもありません。それには、単体の技術力ではなく、より高度で複合化した技術力の集結とそれを総括した総合技術力の活用が必要ではないでしょうか。

当社は総合コンサルタントとして構築し、早18年が過ぎました。更なる技術力の向上と総合力を活かし、インフラ整備を通じて国民の生命と財産を守り、地域社会に貢献するという誇りを持ち、全社一丸となって、北海道の「良きパートナー」として取り組むことを約束します。

今後とも、弊社の技術力をご活用下さいますよう、お願い申し上げます。